

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東海)	良くなる	商店街（代表者） 通信会社（営業担当）	・東京オリンピックが開催されるまでは、景気は上向く。 ・光回線のコラボレーション商品による、回線の切替えや新設・増設需要は、今後も増加傾向が続くと思われる。
	やや良くなる	一般小売店〔高級精肉〕（企画担当） 一般小売店〔土産〕（経営者） 一般小売店〔和菓子〕（企画担当） 百貨店（販売促進担当） 百貨店（経営企画担当） スーパー（経営者） スーパー（店員） スーパー（総務担当） スーパー（商品開発担当） コンビニ（企画担当） コンビニ（エリア担当） 家電量販店（店員） 乗用車販売店（総務担当） 住関連専門店（営業担当） その他専門店〔雑貨〕（店員） 高級レストラン（役員） 一般レストラン（従業員） スナック（経営者） 観光型ホテル（販売担当） 都市型ホテル（営業担当） 都市型ホテル（経理担当） 旅行代理店（経営者） 旅行代理店（経営者） 旅行代理店（経営者） タクシー運転手 通信会社（営業担当）	・賃金上昇ムードが高まり、ギフト商戦への好影響が期待できる。 ・統一地方選挙の影響で、4月はやや弱含みであるが、5月以降は活発化する。 ・これまでのところは、大企業が良くなり、賃金も大企業を中心に上がってきている。中小企業は、これから先に景気が良くなるという期待を持ちながら努力している。 ・突発的な不安材料が出ない限り、現在の良好な景気が、しばらくは続くものと見ている。 ・ベースアップや夏季賞与の増加等、消費にとって明るいニュースが多くなっている。増額分のうちある程度は消費に回り、景気全体が上向いてくるものと想定している。 ・原油安が長期的に続き、GDPの増加にも貢献し、景気は良い方向に動いている。消費税増税の影響は予想外に長引いているが、6月頃には徐々に景気は良くなり、長期的な好景気への出発点になる。大企業や中堅企業の社員は、給料が上がって消費も活発になるであろうが、零細小企業に勤める社員の給料があまり上がらず、家計のやりくりは難しい状況が続く。 ・アイスクリーム等は、価格改定後も購買は変わらず推移しており順調である。野菜の価格も、平均的な水準で落ち着いており、先行きにも良い材料と感じる。 ・食品関係では、客1人あたりの購入点数が増加傾向にある。 ・ガソリン価格下落等の効果で、週末の客足が戻ってきている。競合が激化し厳しい状況ではあるが、消費税増税後の反動減が4月以降は緩和すること、自動車関係を中心に期間社員の募集が続いており短期的には地域の人口増加も見込まれるため、少しずつ良い方向に向かっている。 ・周りから感じるムードが良くなっている。 ・春物商品へのスムーズな入替えと、周年記念企画の実施により、来客数の増加が期待できる。 ・今までは必要最低限の買換え需要が多かったが、まだ壊れていない製品をより省エネなタイプに買換えたいという問い合わせが増えている。消費者には、余裕が出てきているように感じる。 ・この先は、消費税増税の影響が徐々に和らぐ。 ・持家住宅等、住宅分野は横ばいであるが、非居住分野では、民間企業の設備投資、公共工事や商業施設等の新築物件が増加している。 ・年内は、政権運営の安定と共に景気も安定し、消費マインドも良くなると思われる。 ・先月に引き続き、株価が上昇している。過去の経験から、株価上昇による客層のマインドの改善が期待できる。 ・例年と同様であるが、寒い時期より暑い時期の方が来客数が増加するので、これからは売上が伸びてくる。 ・多少は予約が入っているので、先行きに期待する。 ・宿泊や食堂は、現時点では先を読みづらい部分があるが、一般宴会においては、従前からの需要の取り込みが確実で、それに加えて一見客の大型予約も入ってきているので、今月よりは良くなる。 ・先行きに悪くなる要素が見当たらない。 ・インバウンドや団体客の増加が見込まれる。 ・暖かくなるにつれて、段々と人の動きが出てきている。 ・統一地方選挙も終わり、特に懸案もなくなるため、売上も景気も少しは良くなる。 ・ゴールデンウィークを前に、既に夏休みや9月の大型連休のプランにも動きが出てきているので、期待をしている。 ・現状が悪すぎるので、先行きは、少しは良くなる。 ・安価な商品に流れる傾向は引き続きあるものの、販売数は増えるように思われる。

	ゴルフ場（企画担当）	・冬期は毎月雪に見舞われ打撃を受けたが、来月以降は、予約数から見ても順調に推移すると思われるので、景気は少し良くなる。
	美顔美容室（経営者）	・例年通りであるが、4月からキャンペーンが始まり、新規の客が増加する。
	美容室（経営者）	・1～3月は寒かったので客足が悪かったが、これから暖かくなり、行楽シーズンも迎えるので良くなる。
	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・業界の人手不足は慢性化しているため、パートの時間給もかなりアップし、競争が激しくなっている。特に都市部では競争が顕著である。
変わらない	商店街（代表者）	・客は相変わらず、必要以外の品物を買わないため、プラスアルファの伸びが期待できない。
	商店街（代表者）	・経済政策としては、個人の可処分所得を増やそうとしているようだが、周囲でその恩恵を受けている人はほとんどおらず、景気が良くなりそうな要素は全く見当たらない。
	商店街（代表者）	・低い水準ながら何とか安定はしているという感じである。ただし、デパートや商店街等の個人消費に関しては、当面は厳しい状況が続くと思われる。
	商店街（代表者）	・個別のニーズを把握しながら提案営業をしているが、経済的に余裕がありそうな60歳以上の世帯でも、高付加価値商品はなかなか購入しない。先行きの不安の方が大きいように感じる。
	一般小売店〔生花〕（経営者）	・地方では景気が良くなっているとは感じられない。まだしばらくは、この状態が続く。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	・遷宮が終わって1年以上が経過するが、引き続きにぎわっており、今後も大きな落ち込みはないと思う。
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・まとまった休みが取れるゴールデンウィークではレジャー支出が増える。納入先の飲食店では、まとまった休みの前後には客足が減る傾向にあり、今回もこれまでと同様の推移となる。
	一般小売店〔薬局〕（経営者）	・大都市はそれほどの不景気ではないかもしれないが、地方都市では本当に悪い状況が続いている。その一方で都市郊外に大手小売チェーンの出店計画や中堅スーパーの出店があり、市街地の小売店には大きな打撃が危惧される。行政が何か対策を講じないと、ますます落ち込んでいく。
	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	・客の様子からは、季節変動はあるものの、大きな変化は感じられない。
	一般小売店〔書店〕（経営者）	・ここ1～2か月は少しずつ良くなっているの、恐らく先行きも良いと思われるが、今の調子では、現状と比べてほとんど変わりはない。
	一般小売店〔食品〕（経営者）	・春休みに向けて若干の販売増加は期待できるが、売上も利益も前年同期をやや上回る程度で、景気が良くなっていると言えるまでには、まだ時間がかかる。
	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは販売量の動きは変わらない。
	百貨店（売場主任）	・商品ラインナップとして、30～50代向けのビジネスシューズを多く取り扱っているが、この年齢層でもネットで購入する客が増加しており、売場で履いてサイズを確認するだけで購入しない客が多くなっている。ウォーキングシューズを求め高年齢夫婦の客層もあるが、数が少ないので売上には結び付かない。4月からは新入社員が増え、来客数は増加するが、すぐに販売増加には結び付かない。
	百貨店（売場主任）	・先行きも、必要最小限の品物のみを購入するというスタイルは、引き続き変わらない。
	百貨店（企画担当）	・前年の4、5月は、消費税増税の影響で売上が落ち込んでいるので、今年はその反動で、前年比で見ればプラスに転じる可能性は高いが、前々年並みまで確保できるかどうかは不確定な状況である。一部の高額品に動きは見られるが、一般商品の動きが鈍く、この先も大きく方向性が変わらぬと思えない。
百貨店（経理担当）	・春闘では幅広い業種で賃上げ回答が出ているが、実際に支給され恩恵を受けるのはまだ先であり、すぐには消費の拡大にはつながらない。	
百貨店（経理担当）	・外商客への消費税増税の影響はほぼなくなっていると感じられるが、それ以外の客については、影響がまだ残ると思われる。	

百貨店（販売担当）	・実感の伴う景気の上昇が、一部の高額所得層や大企業勤務の世帯以外にも広がれば良いが、そのような兆しはまだ見えない。所得格差の一層の広がり、高齢化の進展や国の抱える巨額な債務等への不安が更に増している状況で、政府の対応がはっきりしないことも、兆しの見えない大きな要因である。
百貨店（営業企画担当）	・一部企業でのベースアップだけでは、消費全体の流れを大きく変えるほどの要因にはなり得ない。
百貨店（販売担当）	・賞与額が決まる時期となるが、ベースアップをする企業がある一方、大企業を除けば、材料費の高騰や円安等で製造業は厳しいとの話も聞く。製造業が多い土地柄では、全体的に賞与が増えなければ、購買意欲の高まりは期待できない。
スーパー（店長）	・現状は来客数、客単価とも良い状態であるが、近隣で大手小売店2店が改装を予定しており、先行きは厳しくなりそうである。
スーパー（店長）	・ベースアップの実施は一部大企業だけであり、多くの一般消費者にとっては、現在の生活水準を維持できればまだ良い方であると認めざるを得ない状況である。
スーパー（店長）	・競合店の出店や相次ぐ食品の値上げ等が影響し、消費者の購買意欲は、依然として低調なままである。売上回復の要素が見あたらない。
スーパー（店長）	・商品の値上がり等が続き、客の財布のひもは非常に固くなっており、消費を引締める状況である。食品の購入においても、引締めが強まる状況となっている。先行きの不安で更に引締めることで、景気は一層厳しい状況になる。消費者の中で値上げが定着すれば、若干変わるかもしれないが、まだ先が見通せない部分が多い。
スーパー（店員）	・現状からは変わらない。客には高齢者が多く安定的に来店するので、先行きの業況は特には変わらない。
スーパー（販売促進担当）	・大手企業は好調と言われているが、自店の周りの中小企業は相変わらず厳しい。また、高齢化や家族の構成人数の縮小等、客層の構造的な変化により販売量は落ちている。
スーパー（販売担当）	・明るくなる材料が見当たらないので、先行きも今の状態が続く。
スーパー（支店長）	・アベノミクスの効果も横ばい傾向である。
コンビニ（店長）	・株価が上昇し、ベースアップも満額の企業が続出しているが、自店の業況には、それほどの影響はない。先行きは、消費税増税後の反動もなくなり平常に戻る。
コンビニ（エリア担当）	・客の購入額が僅かずつ増える状況が、当面は続く。
コンビニ（店長）	・購入単価はやや上がってきているが、来客数の動きが悪く前年割れが続き、売上も前年同期を下回っている。
コンビニ（商品開発担当）	・来客数、客単価共に伸び悩みが続く。同業他社が主要商品のセールを行うと、確実に客足がそちらへ流れるため、依然として消費者のマインドは厳しい。先行きはベースアップで所得が増える世帯もあるが、全般として見れば、今の購買行動がこのまま続くと予想される。
衣料品専門店（経営者）	・なじみ客が中心の商売なので、景気の動きには大きく左右されない。
衣料品専門店（販売企画担当）	・先行きも、販売量が上がりそうな雰囲気がない。
乗用車販売店（経営者）	・多少のベースアップでは物価の上昇や増税に追いつかず、家計に余裕は生まれない。したがって消費の拡大にはつながらない。
乗用車販売店（経営者）	・足元ではやや良くなっており、今の水準は維持するかもしれないが、今後、更に良くなるような感触はない。
乗用車販売店（従業員）	・4月から自動車税制が変わるので、客の雰囲気はどうなるか、5、6月あたりまで様子を見る必要がある。今の時点では、どのように変わるかどうかはわからない。
乗用車販売店（販売担当）	・自動車税の増税で、今後は徐々に悪くなる。
乗用車販売店（経理担当）	・中小企業では大企業のようなベースアップが期待できない。その上、物価上昇で僅かな賃上げ分は飛んでしまう。
一般レストラン（経営者）	・今後良くなる理由が見つからない。
観光型ホテル（経営者）	・客の予約状況は、前年同期の80%程度で推移し、改善の兆しは現れていない。宿泊商品が全般的に弱含みでの推移が続いている。円安が定着しているが、原材料等の値上がりで業績を悪化させる一方、商品の動きには結び付かないため、懸念している。

都市型ホテル（従業員）	・予約数の動きが変わらない。
都市型ホテル（支配人）	・基本的な方向としては、好調が続くと思われるが、仕入れ商品が4月から軒並み値上がり予定で、アルバイトもひっ迫しており、コストの上昇に宿泊料金の上げが全く追いつかない状態である。
旅行代理店（経営者）	・商品の値上がりに対して、ベースアップがそれを上回る企業とのそうでない企業との格差が広がるので、先行きは、消費組と節約組の2つに分かれる。
旅行代理店（従業員）	・大企業ではベースアップがあるということで、そういう客層がけん引すれば、景気は今よりは上向く。中小企業の賃上げの動きがまだわからないが、ベースアップを行う中小企業でも増えれば、景気は良くなるし、そうでなければ今とあまり変わらない。
旅行代理店（従業員）	・統一地方選挙があり、4月の旅行需要は停滞すると予想する。その反動で、5月からの行楽シーズンも重なり需要が増加するため、中期的な予測としては、横ばいである。一方、スポーツ観戦の団体旅行は変わらずに推移している。熱狂的なファンは、リピーターとなり、ほぼ毎回参加する。この客層の動きによって、業況の良し悪しもある程度は予想ができる。
タクシー運転手	・繁華街には人出が少ない。人出が多くなると良くなる。
タクシー運転手	・先行きの景気も今とは変わらない。株価の動きも良く、今年はベースアップもあるので、このまま良いムードが続く。
テーマパーク（職員）	・来客数の動きには変化を感じない。
その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・株価次第の景気で、実態は何も変わっていない。
美容室（経営者）	・全体的な流れとして、最低限の物を必要な時にだけ、という節約モードである。
設計事務所（経営者）	・年度末には時期的なためか、小規模な急ぎの案件が数件あったが、全体的な状況としては、仕事量の低下が続いている。
住宅販売会社（従業員）	・当分は横ばい状態であると思われる。
その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	・ゴールデンウィークまでは繁忙期の名残で需要があると思われる。その先については、例年と同様に、何らかの対策が必要と考えている。
やや悪くなる	
一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・様々な商品の価格高騰により、客は買い控えをし、必要な物しか買わない。3月の落ち込みを考えると、この先2、3か月では、あまり巻き返しは期待できず、売上はしばらく伸びない。
スーパー（経営者）	・先行きが良くなる要因がない。
スーパー（経営者）	・業況が前年よりも比較的良い店も、悪い店も、ここ2～3か月は下がり続けており、今後もこのような状況が続く。
コンビニ（エリア担当）	・4月から、乳製品を始め値上がりする商品が多く、消費者の節約志向は強まりそうである。
コンビニ（店長）	・コンビニや食品を扱うドラッグストアが、引き続き近隣で出店準備中であり、競争が更に激しくなる。
家電量販店（店員）	・段々と景気は二極化してきている。海外で利益をあげる企業や為替相場のメリットを受けられる企業は確かに良いが、我々のような国内向けの企業では、円安メリットを享受する企業の犠牲となっており、全く恩恵が得られない状態である。競争だけが激しくなり事業拡大の要素すら見つからない状況が、将来は更に厳しくなり、二極化が進んでいく。
乗用車販売店（営業担当）	・4月以降は、自動車税の増税や様々な商品の値上がり等で、消費は落ち込むと思われる。
乗用車販売店（従業員）	・4月からの新税制で、ハイブリッド車種以外のほとんどの車が減税の対象外となる。税金負担が5～10万円近く増えるため、自動車販売は、かなり影響を受けると思われる。
乗用車販売店（従業員）	・今月の商品の流れや動きも良くなく、問い合わせ件数も少なく将来につながる明るい材料がないことから、先行きはやや悪くなる。
乗用車販売店（従業員）	・グリーン減税の対象車両が減り、税負担も増えるため、客足の伸びは期待できない。新社会人や異動により春先の需要が増えたのは過去のことである。しかし、新型車両の発表もあるため、今後は、いかに車に興味を持って店頭で集客できるかにかかっている。

	乗用車販売店（従業員）	・減税基準に対応した特別仕様車が出そろうまでは、厳しい状況が続くと思われる。軽自動車への増税前の駆け込み需要の反動もあり、明るい材料はなく、今までになく厳しい状況となりそうである。	
	乗用車販売店（営業担当）	・新車販売に関しては、4月以降のエコカー減税終了に伴って、客もしばらくは購入のタイミングを待つことになる。必要に迫られた人を除いて、車の買換えはしばらく見送られる。	
	その他専門店〔書籍〕（店員）	・ゴールデンウィークで支出はレジャー費等に回るため、売上は減少する。しかし、旅行関係やグルメ関係の本は、売上の増加が期待できる。	
	その他専門店〔雑貨〕（店員）	・異動や入学等の動きが一段落し、日常の生活が始まるので、商品の動きは落ち着く。	
	旅行代理店（経営者）	・春に統一地方選がある影響は大きい。選挙後に旅行商品を受注できても、秋以降の商品となってしまう。	
	通信会社（企画担当）	・新規契約数は増えているが、契約単価は低価格メニューが中心で、節約傾向は続いていると感じる。人の異動が落ち着くと、新規契約も一段落すると見込まれる。	
	通信会社（サービス担当）	・引っ越しに伴って新規に契約する客が多いので、引っ越しシーズンが終わると、今よりも販売状況は悪くなる。	
	テーマパーク（職員）	・北陸新幹線のブームが落ち着くまでは、影響を受ける。	
	観光名所（案内係）	・相変わらず様々な商品の価格が上がり続け、景気が良くなるはずがない。	
	パチンコ店（経営者）	・大手チェーンの寡占化と低単価志向での営業を業界全体が受入れ、客もその状況に慣れてきている。	
	理美容室（経営者）	・客との会話でも、給料が上がらないという話や物価が上がっているという話ばかりで、景気は悪くなる。	
	美容室（経営者）	・県内景気の悪さや止まらない人口流出、これから消費税が増税となる前提で考えれば、景気が良くなる可能性はない。	
	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・福祉用具のレンタル市場は、競争が激しく価格低下が進んでいる。改正介護保険法の施行で、介護サービス事業はより厳しくなる。	
	設計事務所（職員）	・基本的に景気が良くなる兆候は見当たらない。	
	住宅販売会社（従業員）	・もし地元で中小建築会社の倒産等があると、冷え込んでいる消費者の住宅購入意欲に、更に水を差す恐れがある。	
	悪くなる	商店街（代表者） 乗用車販売店（経営者） 住宅販売会社（経営者） その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・年度末を過ぎると、その先は忙しくなくなる。 ・4月以降は一気に下降するものと予想される。 ・物価上昇による生活費の増加が賃上げ額を上回っているの で、全体的に沈滞ムードとなっている。 ・受注はあるが、単価が低い上に材料費の値上がりで利益が確保できない。総合的には前年同月を下回る状況で、景気の回復はまだ先である。
企業 動向 関連  (東海)	良くなる やや良くなる	-	-
	食料品製造業（経営企画担当）	・ベースアップの実施等、大手企業を中心に明るいムードが出てきている。4月からの加速度的な回復に期待をしたい。	
	化学工業（人事担当）	・大手企業だけかもしれないが、ベースアップが景気には影響すると思われる。次年度の新卒者の採用数を増やす企業が多いが、それも将来の景気見通しを示すバロメーターと思われる。	
	鉄鋼業（経営者）	・現状から景気が回復する要因は特にないが、新年度の予算等で、新たな受注の増加を希望的に予測する客が多い。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・受注量の高止まりが続いているが、新年度の客先のフォークキャスト（発注計画）から受注量を推計したところ、一層の上振れが見込める。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・消費税増税の影響も緩和し、大手企業のベースアップもあり、少しずつであるが消費者のマインドは好転してきていると感じる。	
	輸送業（エリア担当）	・円安に伴い製造業の景気が良いので、輸出貨物は堅調に推移すると思われる。	
	輸送業（エリア担当）	・新商品の発売もあり、受注は更に伸びるものと見込んでいる。	
	金融業（法人営業担当）	・取引先の中小企業では、人手不足や、自動車関連部品の受注がやや減少するといったマイナス要因はあるが、原油価格の下落に伴い、原材料コストの低減が見込まれている。	
	金融業（企画担当）	・ベースアップが相次いでいることから、資産を持たない個人にも購買意欲が出てくるため、景気はやや良くなると思われる。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・前年よりもベースアップの動きが全体的に良いため、消費の活性化に伴って、折り込み広告が増える。	
	行政書士	・新年度に向けて、貨物が多様化している。	

	会計事務所（職員）	・同業種の中でも事業者間の格差が広がりつつあり、競争の激化が見られる。飲食関係でも、客のニーズに対応している店は、非常に活況となっている。
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・現在の状態が続けば、株価は更に上昇する。東京オリンピックまでは好況が着実に続く。しかし、企業としてはリスクにそなえる必要もあり、研究開発は怠らない。
変わらない	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・今よりも景気が上向きそうな材料がなく、このままの状況が続く。
	化学工業（総務秘書）	・決算では大手企業は良い数字を公表するので、少なくとも悪い方向とはならない。収入アップにつながる具体的な見通しがあると、景気が上向きという雰囲気になるので、ベースアップの次は、夏季賞与の増額といった報道がマスコミで流れると、景気の良さが感じられる。
	窯業・土石製品製造業（経理担当）	・新設住宅着工件数の動きによる。
	金属製品製造業（経営者）	・新規受注の案件が減少している。
	金属製品製造業（従業員）	・新年度は大型プロジェクトの狭間になると、思いのほか案件が動かない可能性もある。
	一般機械器具製造業（営業担当）	・電子部品市場は、拡大基調にあるとは感じるが、急激な伸びは見られず、価格競争も厳しいため現状維持と思われる。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・今のところ先行きの変化を感じさせる要因が見当たらない。
	輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・完成車メーカーでは、年末までは海外販売が伸びると考えている。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・輸出においては、引き続き円安による為替差益の恩恵を受けると予想される。
	建設業（営業担当）	・最近では、増税前の駆け込み需要が、景気の起爆剤として目立っているため、ここ2～3か月は変わらないが、また消費税増税が近くなれば、多少なりとも受注が増加する。
	輸送業（従業員）	・円安により石油価格が再び上昇する等、物流業界では厳しい経営が続く。輸出関連で業績の好転している業種と内需型の業種では業況の差が大きい。好調な業種では人材採用が活発となり、物流業界の運転手不足に拍車がかかり、人手不足の深刻化が心配される。
	輸送業（エリア担当）	・前月と同様に軽油価格は、前年比で30円ほど下がっている。荷動きも良くなっており、よう車（他の業者から借りる車両、ドライバー）を集めるのに苦労が続いている。
	輸送業（エリア担当）	・景気の上向きを期待するが、けん引するような明るい材料が見当たらない。荷物の量は前年同期よりも減っており、前々年の実績も下回る状況が4月以降も続き、景気の低迷は変わらない。
	金融業（従業員）	・生産予定から見ると、現状の工場やライン間での二極化が、そのまま推移するという見方が強い。
	不動産業（経営者）	・年度末時点の様子見から、成約には進まないという状況が続くようである。
	不動産業（用地仕入）	・景気の動きを左右するような要因が見当たらない。
広告代理店（制作担当）	・景気が良いのは大手企業だけである。受注量、売上共に増加の見込みはなく、厳しい状態が続くようである。	
公認会計士	・円安基調に変化はなく、電力料等も電力会社の経営改善が進むようには見えず、高止まりとなる。中小企業の賃金は上がっていないので、全体としての消費が上向きとは思えない。	
会計事務所（社会保険労務士）	・大企業でのベースアップがニュースになっているが、中小企業ではなかなか難しく、現状維持がやっとという感じである。	
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（代表）	・日頃付き合いのある飲食店、雑貨店や衣料品店等の経営者は、先行きについて相当不安視をしている。景気が良くなっているのは大企業で働く人だけで、中小企業で働く人には全く恩恵がなく、日増しに悪くなっているという声が多い。
	印刷業（営業担当）	・景気の良い悪いは業種によって異なるが、中小企業に関しては、ほとんどが悪い状況である。これから先は、良いところと悪いところの差が広がる。
	化学工業（営業）	・原料価格の低下に伴い競合他社の売り込みが一層強くなっている。今後は売上の減少が見込まれる。
	窯業・土石製品製造業（社員）	・年度末は、例年以上に予算消滅的な注文が多いため、4月以降は少し動きが落ち着くものと思われる。
	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先のチェーン店のリニューアル工事や製品出荷が一段落するので、先行きは売上が減少する。

		電気機械器具製造業（経営者）	・海外向けの物件の大幅な増加により、これまで好調を維持していたが、中国や他の国でも若干ブレーキの傾向がある。為替相場等の動きにもよるが、今後はやや減少する見込みである。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・取引先の設備投資がそろそろ一段落するので、上昇基調はいったん落ち着くと見られる。
		輸送業（経営者）	・原油の先物価格が上昇に転じている。軽油価格下落の恩恵がなくなれば、運輸部門の経営は大変厳しいものとなる。
		不動産業（管理担当）	・大手企業からもコスト削減の要求が出始めている。人材確保の面では、若年層と中高齢者とで求人への応募には差がある。長い目で見れば、景気は悪い方へと向かう。
	悪くなる	建設業（経営者）	・円安のメリットを受ける、特定の業種ばかりが好況で、業種間による不公平感が大きくなっている。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
(東海)		人材派遣会社（社員）	・現状と同様に、年度が替わり人事異動や人員体制の変動等の要因による派遣スタッフの求人が増える。
		人材派遣会社（社員）	・有能な人材を正社員として中途採用しようとする求人ニーズは、依然として強い。
		人材派遣会社（営業担当）	・新年度に入って、派遣の求人はいったん減る傾向にあるが、2、3か月後には、社員の退職や人事異動等で需要は高まると見込んでいる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・為替相場は円安基調を維持し、海外への輸出も伸びるものと思われる。国内の新車販売の状況も徐々に良くなる傾向にある。
		職業安定所（所長）	・為替相場や原油価格の動きが落ち着いてきており、ベースアップが進めば消費が拡大し、緩やかだが景気上昇となる。
		職業安定所（職員）	・大手企業のベースアップにより、若干は消費が活発化すると思われる。また、下請の中小企業に良い仕事をしてもらうため、発注単価の引上げを検討するという話もあるので、ある程度は景気が良くなることを期待したい。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は19か月間続けて1倍を超えている。直近の新規求人数は、前年同期比では1.7%マイナスとはなっているが、製造業では14.8%の増加、労働者派遣業が56.5%減少と、産業別の求人内容から考えると、人手不足感を背景に今後も緩やかながらも改善の動きが続く。
		職業安定所（職員）	・プラス要因としては、春闘によるベースアップで実質賃金が上昇し、消費者の財布のひもも若干緩む可能性がある。また、海外に生産拠点を持つ大手メーカーでは、円安ではあるが、国内工場でも人材募集を行っている。マイナス要因は、製造業でも大企業は好調であるが、下請の中小企業では、仕事が増えても加工賃が上がらず円安に伴い材料費は上昇している。また、求人数は、引き続き増加傾向ではあるものの、相変わらず先が読めない状況にあって、正社員よりもパート求人の増加が目立っている。
		民間職業紹介機関（支社長）	・4月以降は大手企業を中心に中途採用が活発化すると見込まれる。また、大手企業において、ベースアップの報道も多く出てきている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・大手企業の春闘の結果から、ベースアップで消費も増加傾向となり、消費拡大に伴って中小企業も活性化し、経済全体の活性化にもつながると見込んでいる。
	学校〔専門学校〕（就職担当）	・企業からの学生インターンシップの受入れ案内が、件数も対象学年も拡大しており、企業の採用意欲が積極的になっていると感じる。	
変わらない		人材派遣会社（営業担当）	・景気回復へつながらずような特別な材料が見当たらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・企業へ提案するエンジニアの不足感はまだまだ続きそうであり、製造業では、引き続き好況であると見込まれる。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・先行きのプラス要因が見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・人手不足感は改善されないが、どのような求人方法でも確実に人材を採用するのは困難となってきたため、企業は、費用をかけて募集することに二の足を踏む傾向が続くと思われる。
		職業安定所（職員）	・企業の景況感は業種や規模別にばらつきがあるが、求人状況は、全体として高い水準を維持している。
		職業安定所（職員）	・求人数は前年同期比では増加しているが、前月比では減少している。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新卒採用活動により中途採用の動きは多少鈍化することが見込まれるが、求人件数は拡大している。
		その他雇用〔広告代理店〕（求人広告担当）	・景気が良くなりそうな気配が、全く感じられない。

やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・ 今月が好調であった反動で、先行きは少し悪くなりそうである。
	人材派遣会社（支店長）	・ 派遣業務のアウトソーシングへの切替え提案等を失注した影響で売上減少が見込まれ、しばらくは厳しい状況となる。地域としては、受注受付センター等の効率化や低コスト化を目的とする、アウトソーシング化の引き合いが増えてきている。
悪くなる	-	-